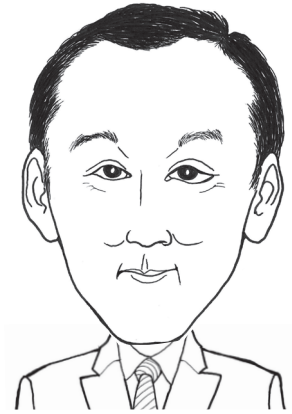


# ひきこもりの悩み解決策について



山下 清美 議員

町長 設置予定の市町村プラットフォームでの意見をいただき、検討する

**問** 令和元年12月の一般質問で、ひきこもりの実態調査を実施すべく、来年度において既に調査を実施した町村の調査内容や手法について、調査研究したいと考えていると、答弁があった。また、同年10月開催のひきこもり研修会では、あくまでも内閣府の推計であるが、本町におけるひきこもり状態は77・4人と推計されること。また、道内で実態調査をしているのは3自治体あり、「実態が分からなければ、対策もたてられない。」と話されている。

そこで、ひきこもりの実態調査やひきこもりの方々の悩みの解決に向けて二期目を迎えた町長の考えについて伺う。

**町長** ひきこもりについては、国から全ての市町村に対して①ひきこもり相談窓口の明確化・周知、②支援対象者の実態やニーズの把握、③市町村プラットフォームの設置・運営が求められている。①の相談窓口は保健福祉課福祉係が担当。②、③については、十勝管内での対象者の把握は個別相談により把握している自治体が多く、対象者の実態やニーズの把握は、ひきこもり支援を行う上での基礎資料になることから、設置予定の市町村プラットフォームでの意見をいただき、その手法等を検討実施する。



## 障がい者等就労支援策について

町長 各種支援機関と連携を図り、サポートを行う

**問** 清水町では、きずな園や教育委員会への臨床心理士の配置など、幼少期から義務教育まで一貫して子どもたちを支え見守っているが、個々に配慮すれば就労可能な方でも卒業後はなかなか社会になじめない方もいる。

そこで、障がい者の方や配慮が必要な方が町内で就労や社会参加につながる仕組みが必要と思うが、町長の考えを伺う。

い者がそれぞれに最も適した働く場所に接続できるように、各支援機関と連携して対応している。障がい者等の就労は、受け入れ可能な町内の事業所が限られており、町外の事業所も含めて検討し、「十勝障がい者就業・生活支援センターだいち」や「おびひろ若者サポートステーション」などと連携を図りサポートを行っていく。

**町長** 障がい者就労支援を受ける際は、町へ利用を申請し、保健福祉課内に設置している障がい者相談支援事業所において、サービス内容や手続き等のアドバイスをを行い、障が



ふれあいの店カリヨン

# 新型コロナウイルス感染者が急増する中での町としての対応について



中河 つる子 議員

町長 検査キット無料配布の考えはない  
道の24時間対応相談窓口を町ホームページで周知



清水市街地の検査キットのある薬局

## 問

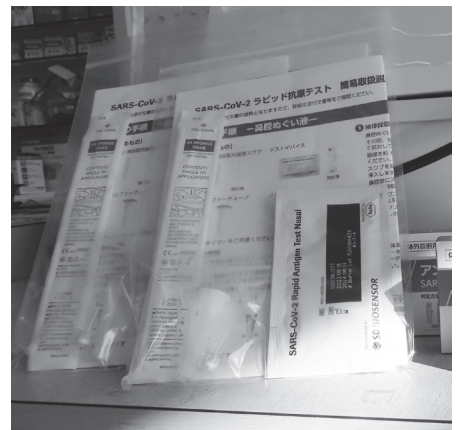
十勝管内では、11月15日でコロナ累計感染者が延べ6万人を超えた。11月に入ってから1日300人以上の日が続いて、今もそれほど減ってはいない。また、インフルエンザとの同時流行も懸念される。(1) 新型コロナウイルスの抗原検査キットを無料で必要な人に配布してはどうか。

(2) 町で、町民の不安や疑問を解消するために、新型コロナウイルス感染症についての相談を受ける窓口を周知してはどうか。

## 町長

抗原検査キットの無料配布については国が承認した医療用医薬品、一般用医薬品を使用するよう国からの通知があり、数に限りがあることから、コントロールして販売しているようである。

また、道では症状がある65歳以上の方、基礎疾患のある方は発熱外来へ、64歳以下の軽症な方は無料の検査キット配布を申請し自己検査を推奨しているため町では抗原検査キットの無料配布は考えていない。



抗原検査キット

相談窓口の周知については、保健福祉課で対応しているが、町としてお答えできないことは保健所や医療機関へ照会するよう伝えている。新型コロナウイルス感染症に関する相談については、国や保健所機能を有する自治体が行うべきであると考えており、道のフリーダイヤル24時間対応相談窓口「北海道新型コロナウィルス感染症健康相談センター」を町ホームページ等で周知している。